

従来、QCの方法による問題解決の方法を中心にやってきた人とBABOKがよく解らないとやってきた人が、DTCNの方法を理解するために作った地図

DTCNのBABOK（プロジェクトマネジメントのガイドライン教科書）の理解促進への適用例、平山、渡辺氏が作成分の要約的解釈

渡辺武久氏と情報診断士の会の人たちの具体例 1

1. BABOKについての疑問

BABOKに書いてあることが日本人にはわかりにくいのですがどうすればよいのでしょうか。
渡辺武久（情報診断士の会）

資料①：[BABOK \(A Guide to the Business Analysis Body of Knowledge\)](#)：カナダの

NPO法人 International Institute of Business Analysis が、ビジネスアナリシス（BA）のベストプラクティスを知識体系としてまとめたもの

資料②：江崎通彦論文「[分析をするということは、何をしさえすればいいのか、それで何ができるようになるのか](#)」：[過去分析、未来分析、現在分析についての新手法](#)

1. 問題点

(1) BABOK（資料①）には、**つぎ**のような用語が使われていますが、その内容が日本人にはわかりにくい点があります。例えば、**つぎ**のような用語です。

① ジネシアナリシス ②エンタープライズアナリシス ③要求分析

(2) 日本人にとって分析ということは、すでにあるものをバラバラにして、詳細な細かいところを理解することで、要求分析ということは、これから何をしようとしているかのすでに要求事項があれば、それをバラバラに分解して、何を**いわん**としているかを分析して把握すればよいと考えますが、所詮、要求事項をどうやって**つくる**かについての説明も何もない先に、要求分析**という**のは順序がおかしいということになります。（BABOK および、それが呼び出す参考書には、要求事項をどうやって**つくる**かについての説明も何もありません）

（現に、カナダ出身のネイティブイングリッシュで考え、ネイティブイングリッシュと日本語の両方で話ができると日本人四世の方もそう**い**っています）、

ところが、要求側、例えば企業、顧客にその要求することを書いたものがすでにあればそれができるのですが、通常はそれが十分といえるほど書いたものがないし、話されたものとしてもないのです。その結果、十分な内容と考えられるところまで分析し、把握することができない状態となってしまいます。どうすればよいのでしょうか。

2. 問題点の解決

(1) 認識：ここに分析をすることは何をしさえすればよいかの資料（資料②）があります。これによれば、分析には過去分析、未来分析、現在分析の3つがあると説明しています。

そして、そこで、未来分析の方法としてDTCN手法のなかのPMD（目的と手段のダイアグラム）とメインキーワードの把握こそが未来分析そのもの入り口である**と**いっています。

(2) 解決の内容①ビジネスアナリシスとエンタープライズアナリシスについて：

① ビジネスアナリシスについても、エンタープライズアナリシス、ついでに**い**ずれもの分析は、PMDとメインキーワードによる未来分析によれば**で**きることです。

そして、そこで明らかにできたPMDとメインキーワードの内容を把握した上で、段階的な手順と、その結果内を創るかの構築を関係者（顧客を含む）と一緒に**な**って、それぞれの課題（ビジネス、エンタープライズ、システムの要求のレベル）について、ステップリスト**お**よびFBSの方法によって展開すれば、その内容を実現可能な最大、最適な範囲で具体化できます。

② また、要求分析についても、それらと同じように、その結果として要求事項が記述できればよいので、これからすべきことを記述することのできる未来分析(PMD とメインキーワードの把握)をすることにより、明確、具体的にすることができます。

この内容については、[江崎通彦著の「WBSの再定義と使い方」](#)の92～97ページにその詳細が書いてあります。

そして、結果として、ビジネスアナリシス、エンタープライズアナリシス、要求分析の結果としての要求仕様が見える形として示し、その結果として、実現可能の範囲で最適化した姿として現実化できます。

3. 成果

BABOK第5章(エンタープライズアナリシス)をDTCN手法を使用して実践した結果、**つぎ**のような成果を得ることができました。

- ① [DTCN手法を情報システムの要件設定のツール](#)として位置付けることができた
- ② ITCプロセス(ITコーディネータ協会が提唱する情報システムを構築するための標準プロセス)の一部として標準化できた
- ③ DTCN手法の情報システム版として適用事例を整備することができた
- ④ BABOKの知識体系を実現する技法としてDTCN手法を検証できた
- ⑤ PM、SEの作業を容易にする知恵を創り出す方法の要約版テキストの完成

以上により、DTCN手法は具体的な情報システムの要件分析、要求仕様の設定に有効な手法であると判断しております。

以上

渡辺武久氏 具体例 2

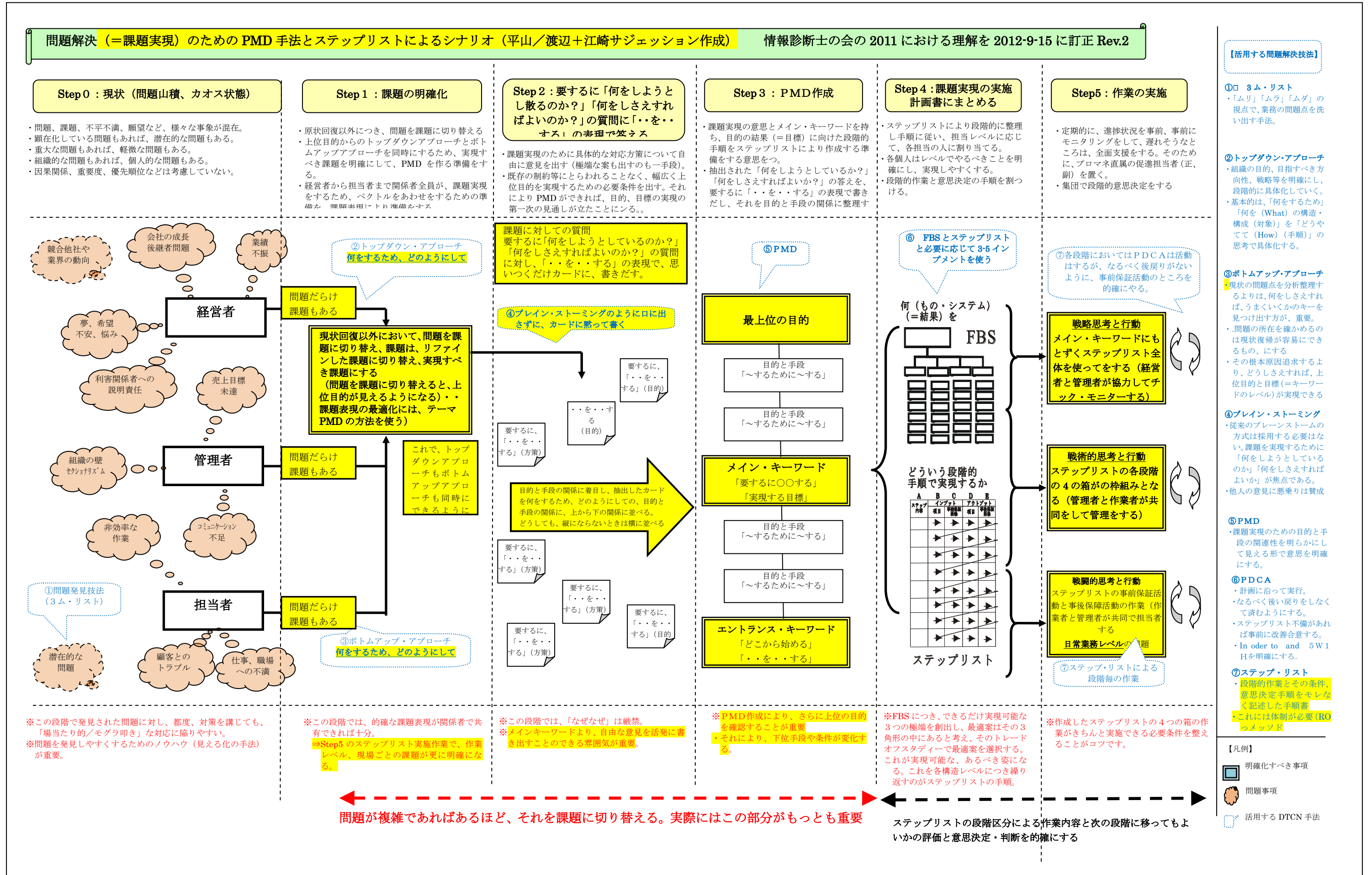
この具体例は、従来、問題解決型の QC の方法を主に使ってきた方（情報診断士の会の方）が、ご自分の使われてこられた方法と対比して DTCN の方法を理解すべき作られたフローチャートとその理解の一覧表です。

図表 1 は、「実施計画書」に従った PMD の方法、ステップリスト、FBS の方法を中心とした全体のイメージ図を示しています。

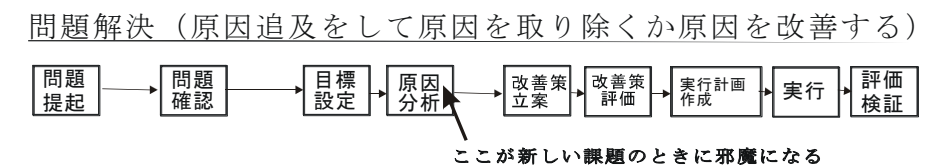
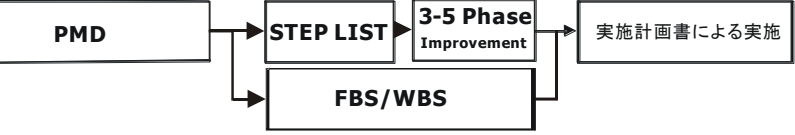
図表 2 は、それに対して表で説明をした内容です。

、。

図表1 「実施計画書」に従った PMD の方法、ステップリスト、FBS の方法を中心とした全体のイメージ図



図表2 図表1の説明 図表1の説明図では、DTCN/DTC実施計画書が抜けているので、これを加えて、課題を実現する、実施計画書を創り、課題実現のための段階的手順と体制を創り、あるべき姿を実現する図です

1	2	3	4	5	6	補足説明
<p>従来の問題解決法（QCにはよく合う） DTCN/DTC手法（＝知識から知恵を創り出す方法）からの視点で、情報診断士の会の2011における理解案（案）を見ると、右記の問題点が見える</p>	<p>問題がいっぱい。問題という表現であると、あるべき姿とその対策のために、原因を探さなければならない。現状復帰のときは、現状とあるべき姿はすでにあるので、従来のQCの方法で充分対処できます。QCの方法のなかでは、問題と課題の区分さえ明解になっていなかった。</p>	<p>① 従来問題と課題の関係を明らかにした論文がありませんでした。 DTCNでは下記にて解決 http://dtn-wisdom.jp/00001-mondai-kadai-J-E.pdf ② 効果と効率についても、どういう関係にあるかの論文がありませんでした。 http://dtn-wisdom.jp/J-Edition%202/J30-Appx%20R%20%20kouka%20to%20kouritu.pdf ③ 分析をするということは、何をしさえすればよいかも、世界を見回しても江崎通彦著の下記の論文以外にはありませんでした。 http://dtn-wisdom.jp/0-analysis.pdf</p>	<p>アイデアの創出</p> <p>従来、あわてて、いきなり結論を出そうとして、あるべき姿を把握する方法もなく、結論の姿としてのアイデア出しばかりに力を注ぎ、かえって、混乱を生じていた。</p>	<p>知識の次に意思があると知恵が創りだせるということの、原理の論文は江崎が発表するまで、世の中になかった。</p> <p>従来は意思の方向とその中心となるキーワードを把握する方法がなかった。</p> <p>また分析をするということは、何をしさえすればよいかの論文（本書の付録1）はなかった</p>	<p>問題解決（原因追及をして原因を取り除くか原因を改善する）</p>  <p>上図において原因分析のところで、原状復帰型の問題解決のとき以外、行きずまりが発生する。 VE、IE、NM法、田口メソッドの方法と相性が悪いのでびたりという感じが少ない。</p> <p>DTCNの方法では、VE、QC、IE、KJ法、QFD、NM法、田口メソッド、TRIZなどの方法をどこで使えばよいかを相性のよい位置に、インプットアウトプットの関係で、スマートに割り付けることができます。その内容は、次ページに示してあります。 URLは http://dtn-wisdom.jp/J-explanations/J-QR-WECQDR.pdf</p>	<p>①□3つのムリ・リスト これは、問題意識としてとらえ、後で課題に切り替えれば、さほど気になりません。</p> <p>②トップダウン・アプローチ ④ トムアップ・アプロー この2つはPMDで同時にできます。</p> <p>④ブレイン・ストーミング はメインキーワードを把握してやればよい。 したがって、今までの発散型のブレイン・ストームは不要です。</p> <p>⑤ MD これはDTCN手法のメイン手法で、今までなかった手法（外国にもなかった）集团の意思を紙の上に整理できる。PMDを作りメインキーワードを把握すれば、それで、従来から言われてきた仮説設定と演繹思考が一度でできるもので、意思決定と判断の基準になります。</p> <p>⑥PDCA これは作業手順ができ上がり、流れができてから作業結果を見直す方法として有効（しかし、DTCN手法では、QC/QA手法のみでやるより、トライアンドエラーの回数は相当減ります）</p> <p>追記 ①□WBSの方法 これは西欧のKJ法に対応するものと考えればよろしい。非常に有効（特にコストマネジメントにおいて）、導入すべきです。詳細は「WBSの再定義と使い方」と「EVMの方法」を見てください。</p> <p>②DTCN手法においては、WBSフェージング・テーマ・テクニックの方法を使い、アイデアやリスク項目に気がついたときに、その中にある書式：テーマアイデア票に記入し検討すべき段階を割つけます。</p> <p>③DTCN/DTC実施計画書を創ればコストマネジメント、QC、QFD、田口メソッド、PM、SE、アイデア管理なども同時に、一つの実施計画書で管理できるようになります。次ページにその具体例をQR/WECQDRのフローチャートとして示しています。</p> <p>したがって、DTCNの実施計画書は、ウィズダム・マネジメントの今のところは、最力なツールとして、現在のところ唯一です。（2012-11月現在） まだ、追加手法も現れることを期待しています。</p> <p>その発展を助ける協会が DTCN協会（2012-11月現在、準備中）です。</p>
	<p>Step 0：現状（問題山積、カオス状態）</p>	<p>Step 1：課題の明確化</p>	<p>Step 2：認識あるべき姿の把握</p>	<p>Step 3：PMD作成</p>	<p>Step 4：課題実現への作業（アイデアの発想と最適化はこのプロセスで行う）</p>	
<p>DTCN/DTC手法ではどうするか？</p>	<p>DTCN手法では、現状復帰以外は、問題を課題に置き換えます。</p> <p>問題は課題を実現するための一つの条件と考えます。</p> <p>DTCNの方法は、カオスからの脱出手法と言われている。 http://dtn-wisdom.jp/E-edition%201/E%20PM%20method%20oescap%20chaos%20PRs.pdf</p>	<p>問題を課題に切り替えると、上位目的が見えるようになる。</p> <p>①DTCN手法では、「なぜ」と「何を」するため、どのようにして」質問の使いわけがはっきりしている。</p> <p>②最上位の目的に、利益の確保をもってきてはいない。</p> <p>③DTCN手法の最上位の目的は、利益を得ることではなく「地球を守る、顧客を創造する、顧客を満足させる」である。 利益の位置付けは③を実現するための、リスク対策コストを含む必要最小限の利益を得ることである。</p> <p>④ DTCN手法の中では、従来、解りにくかった、検証（Verification、Validation、Inspection）の関係を明らかにしている。</p>	<p>DTCNの方法ではアイデア出しは先に行わない。 あるべき姿のレベルを先に把握する。</p> <p>要するに、何をしようとしているのか（目的と目標レベル）と何をしようとしているか（手段レベル）の確認が先決</p> <p>そのためにStep3のPMDを作り、メインキーワードを把握できた後（＝あるべき姿を把握できた後）のStep4で、メインキーワードを中心に、FBSの方法を使ってアイデアの比較案を出して比較評価の上、最適案を選択する</p> <p>（従来の発散型のブレイン・ストームの方法は不要、キーワードで焦点を絞ったアイデア出しをFBSの方法の中でする）</p>	<p>PMDの作成。 課題に対する質問 それで何をしようとしているのか なにをしさえすればよいか の二つの質問をする。</p> <p>答え方 要するに「・・・を・・・する」で答えカードにする そのカードを使って、PMDを創る</p> <p>そこで、 ②□位目的 ②メインキーワード ③エントランスキーワードを把握する。（これは要約されたコーチング質問であると認識すると解りやすい） （註：課題の最適化は「課題（テーマPMDの方法）を使う</p>	<p>①□メインキーワードを中心に実施計画書を作成します。 DTCN/DTC実施計画書の中身の構造は下記の通り</p>  <p>FBSは、結果のもの・システムの実現可能の範囲にある、3つの極端3案を作成し、あるべきの最適案はその3角形のなかにあるとの認識で、最適案を評価選定します（この作業は、各構造・構成レベルごとにDTCNトレードワークシートを使う）（アイデア出しは、そのワークシートに書かれているメインキーワードとアイデアマトリックスにより行う）ステップリストの方法はそのアイデアをリファイン、現実化するプロジェクト段階の手順として使います。</p> <p>②□実施計画書に基づき、帰納と演繹アプローチのできる体制で段階的に作業をします。 ③そして、結果として、実現可能な範囲内にある最適案あるべき姿の結果の構造構成案を得ます。 その結果が出てからは、後は、QC/QAのPDCAのアクションでリファインをします。 しかしDTCNの方法には、ステップリストの落ちのない4つの箱があるので、PDCAによる、トライアンドエラーの回数は、従来より減ります（QI：Quality Improvementの新しい方法として使える）</p> <p>⑥ 上の全体の流れは、次ページと http://dtn-wisdom.jp/J-explanations/J-QR-WECQDR.pdf を見て下さい。この中には、KJ、PMD、QFD、田口メソッド、VE、IE、QC、技術屋に解りやすい会計の方法の位置付けと関係が示されています。</p> <p>その他、新しい手法でも、その作業段階に合わせて必要に応じ、インプット、アウトプットの関係で、どう組み合わせるかが割りつけられます。必要なければ、割つける必要はありません。</p> <p>⑦ DTCNの方法の利用対象、管理対象はソフトでも、もの・システムでも良い。 大がかりなソフト開発では、ソフトの業者側の知識と知恵を使うことになるので、相互の知識と知恵の交換で最適案を選ぶ必要がありますので、段階的手順のステップリストの前の4段階（帰納アプローチでは役割契約）と後の4段階（演繹アプローチでは：競争入札）とし別の段階的契約にする必要があります。（これを一つの金額で、まとめてやろうとすると多くの失敗を招く原因となります）（また、このとき守秘契約を必要に応じ結ぶ必要があります）</p> <p>契約においては、いい手と受け手の関係は、日本では、企業間で取引基本契約書が商習慣としてあるので、水増し（取引基本契約書にもとづく不正と認識される）という認識がありますが、外国の契約は UCC2-206 に言われているような、交渉（ネゴ）の基本ルールがありますので、契約相手がその値段で買うと同意をすれば、日本でいう水増しに相当することがあっても、許されます。これを防止するためには、日本の調達側から、事前に 日本の取引基本契約書（第5条の契約条項があるもの） を価格の交渉前に契約すればよい。これができねば、日本側がネゴをうまくやる力をつける以外には方法がありません（この件、商社を使ってきた、国の輸入行政調達に重要な問題要件となっています）・・・この商</p>	

					習慣の違いに、日本の行政調達機関は、従来気がついていなかったの内閣府に、 2010-11-9 および 2011-11-23 に提案を行っていますまで。	
--	--	--	--	--	---	--

